

〔地域連携先等（他地域）との連携プロジェクト〕

## 石巻市におけるスレート集落調査

プロジェクト代表者：大 沼 正 寛<sup>1)</sup>

プロジェクト連携先：石巻市役所生涯学習課（近代化遺産保存活用検討専門委員会事務局）

### A Survey on the Slate Roof Houses and Villages around Ishinomaki District

#### Abstract

The progress report of continual survey on the manifold cultural landscapes of distribution and concentration of natural slate roof houses and villages are described in this report. The original technique of quarrying stones and slice processing have been put in practice from Muromachi period and subsequently, the manufacturing companies have made school slate products or roofing slate materials from Meiji period at Ogatsu town, Ishinomaki district. The roofing materials were used to not only various Japanese modern architectures, for example Tokyo station building, but also many folk houses in the northeast district of Miyagi prefecture including Ishinomaki.

Now we can see a lot of properties after WWII and the land reform rather than a few of old things. In addition, a lot of assets in the coast area were sharply decreased because of the Great East Japan Earthquake, Big Tsunami and public support system of pulling down. Therefore, we have gone and confirmed the existing at the scene from coast area to inland country with the PDA tool and on-line GIS.

We have recognized the architectural historical geography with drawing the large and detail map of slate roof houses and villages.

#### 1 はじめに

東京駅や北海道庁舎など、国内各地の近代建築に活用されてきた天然スレートは、震災以降とくに注目を集めている。その産地は、宮城県石巻市雄勝町に始まる県北東部から岩手県南東部、いわゆる陸前地方であった。

先駆となった雄勝町周辺では、この石材を中世から硯に利用し、明治初期は教育用石盤（スクールスレート）に加工利用した。その後間もなく、洋風建築の需要という契機が訪れる。その特需活況に同質の岩体をもつ陸前北東部の各地で開発が進むが、栄枯盛衰を辿る。

さて、駅舎や庁舎、銀行、富裕層の洋館などに用いられたことは各方面で指摘・解明されてきたが、この地方の民家建築にも思いのほか広く用いられ、広域文化的景観ともいえる特徴を有していることは十分知られていない。ただし、今次震災によって最初期の遺構が混在していた可能性のある沿岸漁村は壊滅的な被害を受けている。確かに、陸前地方沿岸は度重なる津波を被っているが、天然スレートの普及時期は明治津波や昭和津波とも近

---

1) 東北工業大学 ライフデザイン学部 安全安心生活デザイン学科 准教授

く、その分布や経緯を正しく理解することは、建築史・農漁村景観のみならず、地域文脈解明や復興計画においても重要といえる。

本研究は、広域に分布する宮城県北部の天然スレート民家・集落のうち、石巻市周辺の遺構を現地にて観察・記録して、その歴史地理の概要と建物の構え・意匠の特徴を明らかにすることを目的とする。

## 2 既報と本研究の取り組み

これまで、当研究室で行ってきたスレート民家調査では、地理情報システム（GIS）を用い、各民家の用途、規模、屋根形状、破風造形、葺き方造形を分類してきた。研究着手時点では、250～300件ほどの現存遺構を確認していたが、2014年からの本調査研究では、調査システムの改善を行い（図1）、新たに534件の遺構を確認し、データベースを作成することができた。

この調査は、まずGoogle Mapなどの公開情報を用いて、おおよその分布エリアを予測し、現地に赴いて存在を視認、記録するものである。このとき、予め用途や規模、屋根形状などの採取項目を選択方式にしたオンラインGISを利用することにより、効率の良い調査が可能となった。

調査風景と行程概略は写真1、写真2および表1のとおりである。

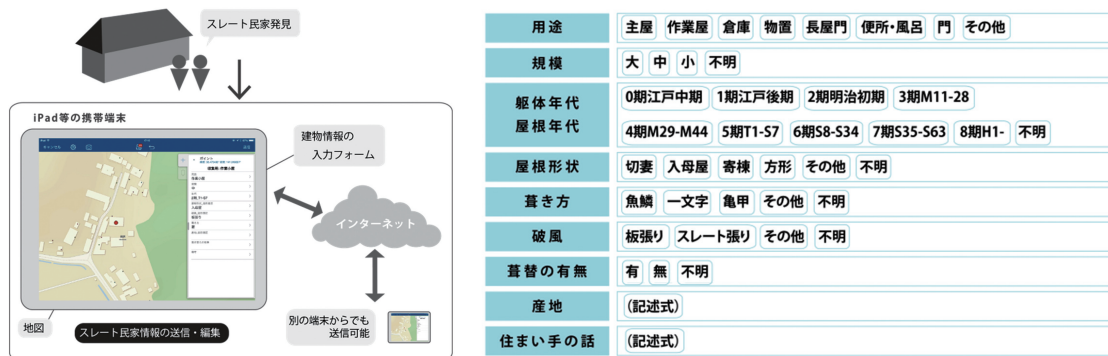


図1 本研究におけるオンライン地理情報システム（GIS）とデータ収集項目



写真1 現地視認調査の風景（左）  
写真2 伝統技能保持者佐々木信平氏の講習参加風景（右）

表1 現地調査の記録

日付	調査者	エリア	確認地区名
2014.05.27	大沼正寛, 尾形章, 庄子雪菜	旧河北町周辺	相野田, 牧野巣, 馬鞍, 皿貝
2014.07.18	尾形章, 庄子雪菜	登米町周辺	桜小路, 上町, 下り松, 北沢, 舟場, 沼畑, 新田, 小島, 表一, 表二, 裏一, 裏二, 新小路, 横町, 足柄町, 峯畑, 黄牛町, 本町四, 本町三
2014.08.06	大沼正寛, 尾形章, 庄子雪菜, 丹野慎	旧入谷村周辺	一区, 四区, 五区
2014.09.01	大沼正寛, 尾形章, 庄子雪菜, 丹野慎	豊里町周辺	山根, 長根, 保手
2014.09.19	大沼正寛, 庄子雪菜	牡鹿, 旧稲井村周辺	際, 鹿松, 渡波周辺, 祝田, 蛤浜, 針浜, 月浦, 浦宿, 大沢, 表沢田, 裏沢田, 沼津, 小島, 井内西, 北境, 東福田, 大土
2014.10.20	尾形章, 庄子雪菜, 丹野慎	旧稲井村周辺, 前谷地周辺	大森, 大土, 東福田, 北境, 八津, 入, 高木西, 高木東, 水沼西, 水沼東, 和測, 赤羽下, 下谷地, 町中, 町下
2014.10.31	大沼正寛, 庄子雪菜, 阿部春菜, 佐藤優茉	旧稲井村周辺, 登米周辺	内原, 高木東, 三輪田上, 桜小路
2014.11.28	大沼正寛, 庄子雪菜, 丹野慎	登米町, 旧浅水村周辺	横町, 城内, 神ノ木, 小島, 巻, 浅部
2014.11.29	大沼正寛, 尾形章	登米町	桜小路, 上町
2015.02.23	大沼正寛, 庄子雪菜, 丹野慎, 佐藤太地	旧河北町周辺	内原, 大森, 牧野巣, 皿貝, 馬鞍

### 3 分布調査の結果

この分布調査は、石巻市に隣接する登米市にも広げており、結果として今年度は534件の天然スレート民家を確認した。そのうち、天然スレートが集中している地域を農村集落単位で区分し、天然スレート集落とした。踏査した範囲のうち、石巻市周辺に広域に広がる分布状況をマップ化したものを図2に示す。

スレート生産のメッカである雄勝町周辺は、津波被害が甚大であり、行政による公費解体ラッシュもあり、激減した感が否めないが、むしろ新北上川の両岸、すなわち左岸の旧北上町中原、要害、馬鞍、皿貝といった入江の集落や、右岸の旧河北町（旧大川村）の針岡、福地、三輪田といった集落において顕著に見ることができた。またさらに、上品山の西の麓にあたる旧河北町（旧二俣村）の大森、大土、東福田、北境といった集落、石巻市旧稲井村にあたる高木、水沼も集中して存在しており、さらに女川町域へと連続している（図3～図8、写真3～写真14）。

なお、これらの分布をひろく概観すると、旧稲井村にあたる領域や新北上川河口域に近い領域にやや古い遺構があるようにも見られた。また、北上川沿いに分布している箇所が多く、河川を輸送経路とした可能性を疑ったが、各地での聞き取りからはそのような話は聞かれない。確かに多くは昭和の遺構であり、むしろ河川沿いの道路網と、これに呼応した文化圏域が緩やかに持続していたとみることもできるだろう。また、筆者による東日本大震災以前の雄勝町では、天然スレート民家が非常に多くみられ、それが内陸の味噌作、原地区を通して内原、水沼へと伝播した可能性もある。



本調査は広域視認調査を重視するため個別遺構のヒアリング調査は限定的となっていることから、この点についてはさらに今後調査を進める予定である。

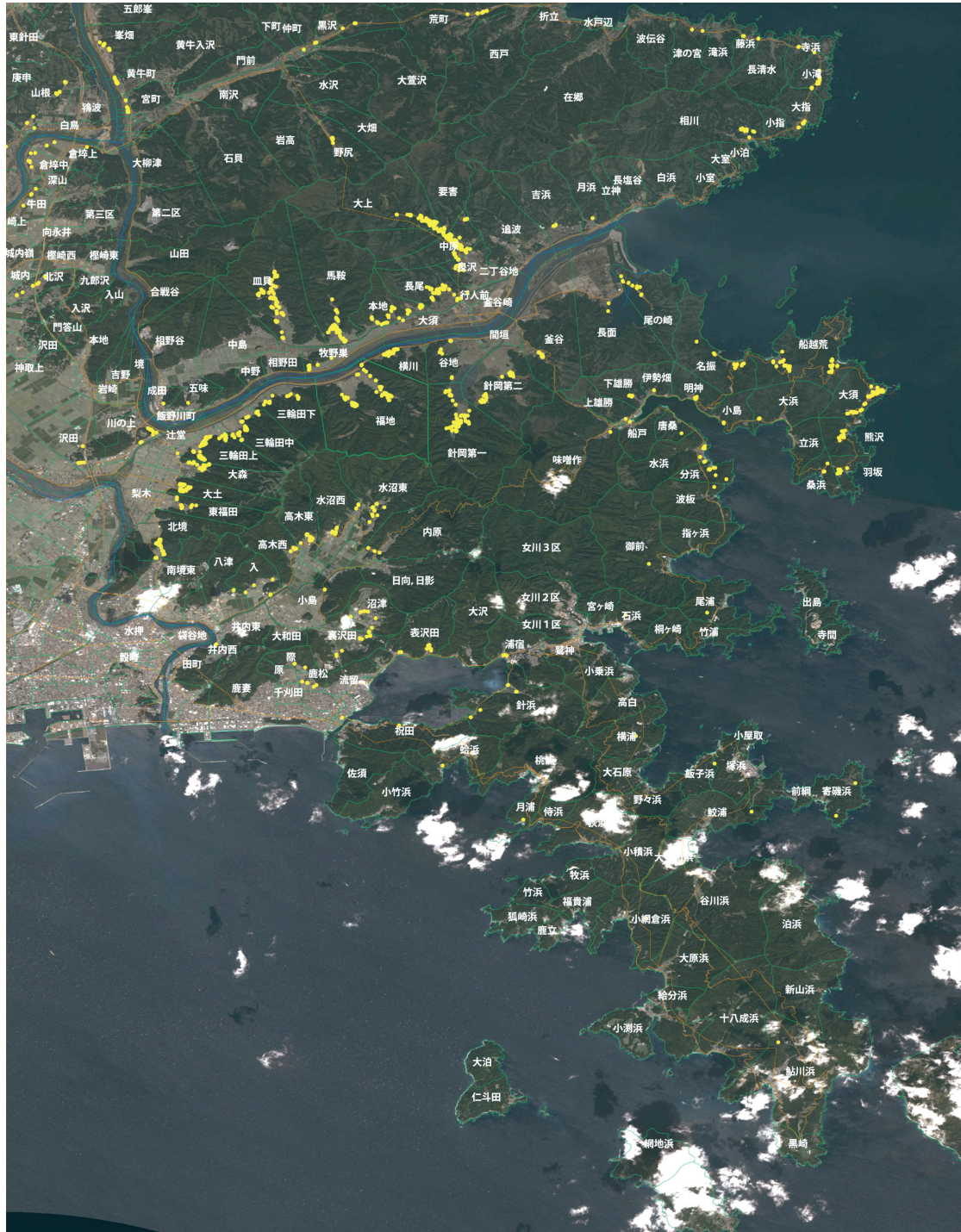


図2 地理情報システム (GIS) による石巻周辺のスレート民家建築の分布概況





図3 旧北上町皿貝・馬鞍地区の分布

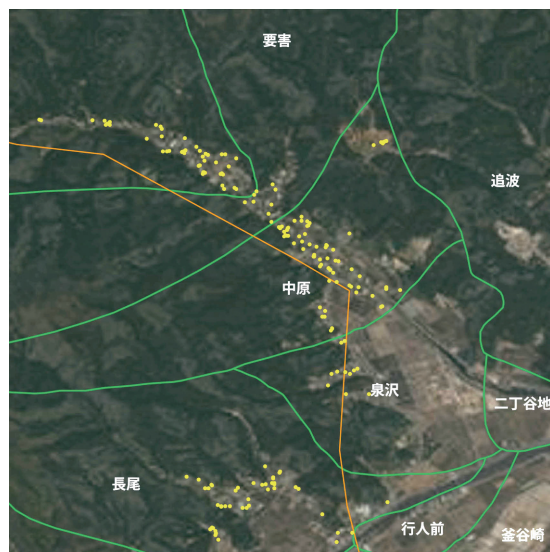


図4 旧北上町中原・要害地区の分布



写真3・4 皿貝・馬鞍のスレート民家外観



写真5・6 中原・要害のスレート民家外観

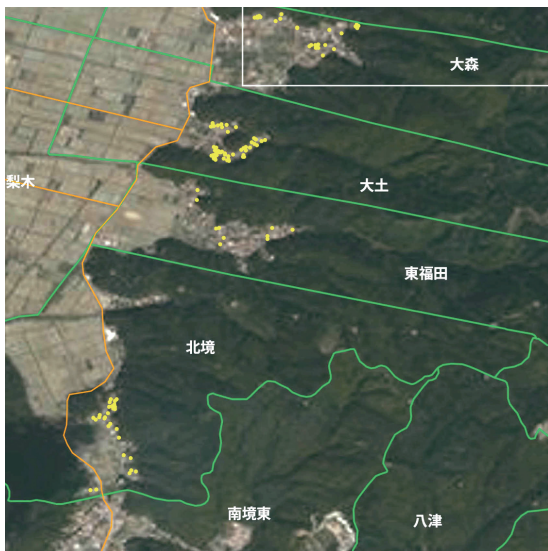


図5 旧河北町北境・大土・大森地区の分布

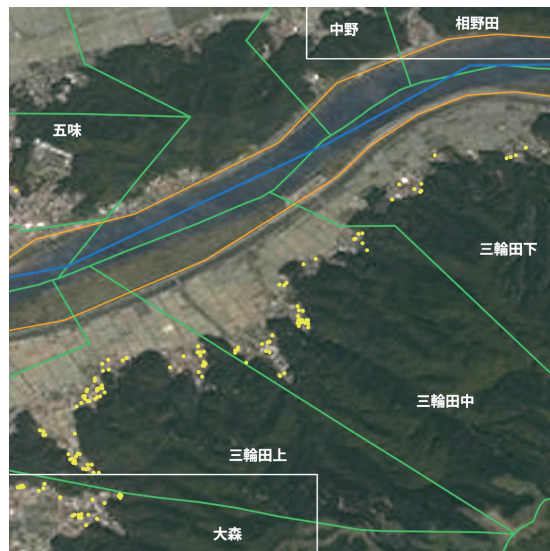


図6 旧河北町三輪田地区の分布



写真7・8 北境・大森のスレート民家外観



写真9・10 三輪田のスレート民家外観





図7 高木・水沼地区（旧稲井村）の分布



図8 旧雄勝町大須・熊沢・羽坂地区の分布



図11・12 高木・水沼のスレート民家外観



図13・14 大須・羽坂のスレート民家外観

#### 4 用途・屋根形状・葺き方

現地視認調査において得た建物別の情報のうち、用途・屋根形状・葺き方に着目し、これらを集計したものを表2に示す。

天然スレート民家を観察し、また地元住民らに聞き取りを試みると、元茅葺きから天然スレートに葺きなおしたものも多く確認できた。また、スレートのメッカ雄勝町の周辺よりもむしろ、これに続いて一大産地となった登米市登米町北沢の採石所周辺から広がる一円にも多くの天然スレート民家が確認できた。

用途としては、倉庫・物置に葺かれているものがことのほか多い。その理由として、もとは全てに葺かれながらも、主屋のほうが性能向上への要求がつよく、結果として、瓦屋根に葺きかえられている例が多かったことも一因と考えられる。

また屋根形状については、切妻、入母屋が多い。寄棟屋根もなくはないが、主に長屋門にみられるにとどまる。主屋は入母屋が一番多く、倉庫・物置では切妻屋根が多い。

葺き方については、基本的には魚鱗葺きが支配的である。魚鱗葺きは、通常多くみかけるものだけではなく、大きさや切り方に派生があり、どちらかといえば雄勝産はRの取り方が小さく、登米のそれは大きい。また逆に、小さ目のスレートが登米周辺で見られることもある。登米町の旧武士住宅において、塀や門等の工作物が多く見られ、その際に小さなスレートを使用していることも、そのような傾向の一因であろう。

また、やや高級とみられる一文字葺きは、主に稲井周辺に多く普及している。さらに菱葺きや亀甲葺き、蛤葺きについては、棟・破風等の部分や特殊な意匠を表現する際に使わ



れる。入谷では多くの亀甲葺きの棟がみられたが、これらは職人技術の共通性によるものとみられる。すなわち、技術者の歴史解明が必要であることに帰着する。

表2 視認調査物件 534 件の内訳（用途+葺き方-屋根形状のクロス集計）

用途他	形状	切妻	入母屋	寄棟	方形	その他	不明	総計
<b>1.主屋</b>		<b>44</b>	<b>87</b>	<b>3</b>	<b>1</b>	<b>3</b>	<b>34</b>	<b>172</b>
1.魚鱗		37	73	2	1	2	10	125
2.一文字		5	11				1	17
3.亀甲								
4.菱								
5.烏帽子								
6.その他						1		1
7.不明		2	3	1			23	29
<b>2.作業屋</b>		<b>51</b>	<b>7</b>	<b>1</b>		<b>2</b>	<b>13</b>	<b>74</b>
1.魚鱗		40	6	1		2	3	52
2.一文字		7						7
3.亀甲								
4.菱		1						1
5.烏帽子								
6.その他								
7.不明		3	1				10	14
<b>3.倉庫・物置</b>		<b>128</b>	<b>15</b>	<b>1</b>			<b>38</b>	<b>182</b>
1.魚鱗		105	14				9	128
2.一文字		19	1	1				21
3.亀甲								
4.菱								
5.烏帽子								
6.その他								
7.不明		4					29	33
<b>4.便所・風呂</b>		<b>3</b>					<b>4</b>	<b>7</b>
1.魚鱗		2					1	3
2.一文字		1						1
3.亀甲								
4.菱								
5.烏帽子								
6.その他								
7.不明							3	3
<b>5.門</b>		<b>9</b>						<b>9</b>
1.魚鱗		9						9
2.一文字								
3.亀甲								
4.菱								
5.烏帽子								
6.その他								
7.不明								
<b>6.長屋門</b>		<b>14</b>	<b>14</b>	<b>5</b>			<b>8</b>	<b>41</b>
1.魚鱗		12	13	5			3	33
2.一文字		1	1					2
3.亀甲		1					5	6
4.菱								
5.烏帽子								
6.その他								
7.不明								
<b>7.塀</b>		<b>2</b>					<b>5</b>	<b>7</b>
1.魚鱗							3	3
2.一文字		1						1
3.亀甲		1					2	3
4.菱								
5.烏帽子								
6.その他								
7.不明								
<b>8.その他</b>		<b>15</b>	<b>5</b>		<b>2</b>	<b>5</b>	<b>14</b>	<b>41</b>
1.魚鱗		14	5		1	3	2	25
2.一文字						1		1
3.亀甲						1		1
4.菱								
5.烏帽子								
6.その他								
7.不明		1			1		12	14
<b>9.不明</b>							<b>1</b>	<b>1</b>
7.不明							1	1
<b>総計</b>		<b>266</b>	<b>128</b>	<b>10</b>	<b>3</b>	<b>10</b>	<b>117</b>	<b>534</b>

## 5 まとめにかえて

石巻周辺の天然スレート民家・集落を広域に調査することにより、その分布状況、用途、屋根形態、構えや意匠の特徴といった実態が明らかになってきた。遺構の多くは昭和期のものであり、いわば昭和の文化的景観として、国内に比類のない特徴的な住文化を体現していると考えられる。天然スレート民家が一体的に残る集落、一部に残る集落、全体的に変容した集落と多様であり、これら当地方一円が広域文化的景観を形成しているということもできるだろう。

当該遺構の歴史地理解明は道半ばであり、今後も継続していく所存であるが、この種の宝探しのような調査研究に、非常に能動的に関わってくれた学生諸氏に心から御礼を述べつつ、今後は以降の広域活用保全にも考察を寄せていきたい。

### (謝辞)

本研究は、先行する科学研究費若手B、三井物産環境基金（いしのわプロジェクト）を下地として行うとともに、東北工業大学地域連携研究助成を得たこと、尾形章、庄子雪菜、丹野慎らを中心とした大沼研究室配属学生の協力が大きかった。記して謝意を述べたい。

### (参考文献)

- 1) 石田潤一郎：スレートと金属屋根；INAX出版，1992
- 2) 大沼正寛・今泉俊郎・高橋恒夫：「写真展・天然スレートの陸前五浜」報告書，東北工業大学，2014
- 3) 高橋哲郎：登米スレートの採掘と施行，2003
- 4) 羽山庫納編：郡区町村一覧 明治14年；国立国際図書館近代デジタルライブラリー
- 5) 早坂亮：旧陸前地方における天然スレート民家の基礎的調査；安全安心生活デザイン学科卒業研修梗概集，2013
- 6) 庄子雪菜：陸前天然スレート民家の分布状況と文化的景観，安全安心生活デザイン学科卒業研修梗概集，2014
- 7) 拙稿：住環境資産の経年と住み手の美的価値観に関する比較考察：金ヶ崎・川越・雄勝水浜の経年マップをもとに；日本建築学会東北支部研究報告集，計画系（69），285-288，2006
- 8) 拙稿：動態的広域文化的景観－陸前スレート民家；日本建築学会大会（近畿）農村計画部門パネルディスカッション資料集；文化的景観のまもりかた～営みに真実性はどのように保たてるのか～，pp51-54，2014